

夏物をしまう前に、やっておきたいね！



過炭酸(かたんさん)
1袋400円のスゴいやつ！

お父さんのシャツ。去年しっかり洗ってしまったはずなのに、今年着ようとしたら衿が黄ばんでてがっかり～。という経験はありませんか？これは洗剤だけでは落ちきれないきつい汚れ（皮脂や汗）が取り切れていないから起きる「酸化」。

ワイシャツやブラウスなど「これは汗が凄かったなー」と思う品物は**酸素系漂白剤「過炭酸」**で浸けおきした後に、洗ってしまった方がいいですよ。



まず洗面器かバケツを用意。40～45℃のお湯を張る。過炭酸を溶かす。衿の汚れ部分又は全体を20～30分つけ込む。汚れがきつい場合は石けんなどでブラッシングしてからつけ込むとさらに効果的！

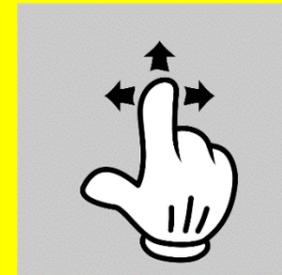


あとは、いつものように洗濯機で洗うだけ。ねっ、簡単でしょ。この酸素系漂白をすると安心して夏物をしまえるよ。もちろんブラウスの脇の黄ばみもいけます。更に、食器の黄ばみ、茶しぶも落とせちゃう。ふきんやスポンジの除菌、臭いとり。過炭酸はお得な優れものなのよ～

過炭酸の詳しい使い方を知りたい方は4ページのイベントのご案内「洗濯の学校」にお申し込み下さい！

マスター前田

今月のゴッドハンド



ビフォー



血液のシミ、いきなりドライは、絶対ダメ～！



アフター
水と酵素できれいに落ちました

ある日のお客様。「血が付いたので他のチェーン店に出したんだけど全然落ちて無くて～」。と紳士用ズボンをお持ちになりました。おそらくその店ではドライクリーニングだけをして処理したのでしょう。これでは血液が落ちるわけがありません。またドライは高温乾燥します。血液は高温でさらに固着して取れにくくなるのです。今、全国でクリーニング難民が増えているのはこういう基本のキができないクリーニング店が増えているから！

そもそも血液はドライクリーニングでは落ちません。ドライクリーニングは油溶性のシミは落ちますが水溶性のシミは落ちにくい。血液はまさにその水溶性のシミなのでいきなりドライは間違っている。血液の場合は、まずその部分を水溶性のシミ抜きをしてからドライクリーニングが正解。血液のシミでクリーニング屋に行くなら「水性のしみ抜きで落としてからドライしてもらえますか？」とカウンターで聞きましょう。「えっ、それは何のこと、、、？」なんて言われたらサッサとその店は失礼した方がいいですよ(*^O^*)。

カビは黒や紺の色まで食べるので注意して下さい！



カビはとにかく早めの処置が大事！

今年の夏の暑さはハンパじゃなかった。それに加えて湿度も。これじゃカビも生えますね。このカビも今年のものならまだいいんです。でももっと前のものだと「カビは取れても色がやられる」ことがあるんです。

つまり、時間が経ちすぎるとカビが深いところまで侵入して地色まで食べてしまうんですよ。**特に黒や紺色は危ない！**クリーニングしてきれいになったなと思ったらなんとなく紺色が白っぽくなって、なんてこともあるんです。カビが色まで食べちゃってるんですね。

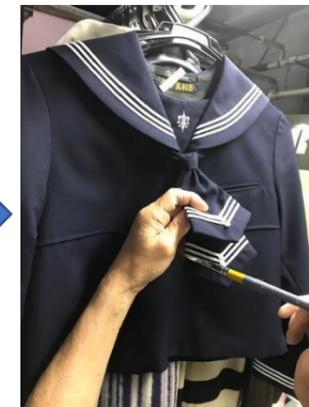
そうならないためにも早めのクリーニングは大事です。**早い段階ならドライクリーニングでも十分きれいになります。**柳屋のドライ溶剤はしっかり管理されているからカビだってきれいになるんです。でも、ひどくカビちゃうことってありますよね。そんな時、ホントにカビの胞子まで退治したいなら、、、

カビを芯まで取る詳しい洗い方を知りたい方は別紙をご覧ください！

セーラー服、白線の復活



これも血液のシミ。まずシミ抜きしてドライクリーニング。



セーラー服の白線。黄ばみや黒ずみは1本1本特殊漂白。紺色を色落ちさせない独自技術！



リボンの白線も復活しました～！